

日本の大学における教育カリキュラムの体系化 —心理学分野に着目して—

Systematization of education curriculum in Japanese universities
—Focusing on the field of psychology—

本田 周二¹, 八城 薫¹, 古田 雅明¹, 香月 菜々子¹, 堀 洋元¹, 井上 修一², 牧野 智和³
Shuji Honda¹, Kaoru Yashiro¹, Masaaki Furuta¹, Nanako Katsuki¹, Hiromoto Hori¹,
Shuichi Inoue², and Tomokazu Makino³

¹大妻女子大学人間関係学部人間関係学科社会・臨床心理学専攻,

²大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科人間福祉学専攻,

³大妻女子大学人間関係学部人間関係学科社会学専攻

キーワード : 心理学, 教育プログラム, 女子大学

Key words : Psychology, Education curriculum, Women's University

1. 研究目的

本研究では, 日本全国の大学における教育カリキュラムを3つのポリシーを含む様々なデータに基づいて整理・体系化することを試みる. なお, 大学には様々な学部・学科が存在しているが, 本研究では, 本学が女子大学であることに加え, 以下の2つの理由により, 心理学分野の教育カリキュラムに焦点を当てて, 整理・体系化していく.

(1) 2015年6月に文部科学省が通知した「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」を発端に大きな議論となったように人文社会科学系学部に対する教育改革を求める社会的な要請は相対的に大きいと考えられる.

(2) 2015年9月に公認心理師法が成立し, 心理学分野においては初めての国家資格が誕生することとなった. 2017年9月に公認心理師法が施行されたことに伴い, 現在, 日本全国の心理学分野の大学において, 教育カリキュラムの改革が行われているところであり, 本分野の教育カリキュラムの整理・体系化が及ぼす社会的意義は大きいと考えられる.

以上の理由により, 本研究では, 日本全国の女子大学における教育カリキュラム(心理学分野)の整理・体系化を行うことにより, 心理学に関する教育カリキュラムの特徴を明らかにすることを目的とする. 具体的には, 「授業名」「3つのポリシー」「カリキュラム構成」といった具体的なデータをもとに, 整理・体系化を行う.

2. 研究実施内容

分析対象

本調査では, 2017年2月の段階において, 日本心理学会 HP 中の「心理学を学べる大学」に掲載されていた270大学(表1)のうち, 41の女子大学(表2)を分析の対象とした. なお, 1つの大学において複数の学科・専攻で心理学教育を実践している場合は, 個別に分析を行った.

表1 心理学を学べる大学の数(地域別)

北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
8	17	99	37	59	22	28

※日本心理学会のHPを参考に独自で作成
※日本心理学会会員が5名以上所属している大学, または, 2012年10月~2014年9月までの日本心理学会認定心理士の審査数が20名を超える大学が対象

表2 心理学を学べる女子大学の数(地域別)

北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
0	2	17	3	11	2	6

※日本心理学会のHPを参考に独自で作成
※日本心理学会会員が5名以上所属している大学, または, 2012年10月~2014年9月までの日本心理学会認定心理士の審査数が20名を超える大学が対象

データ収集時期

2017年6月~9月の間に, 心理学, 社会学, 社会福祉学の専門家および臨床心理学を専攻する大学院生2名によってデータの収集を行った. なお, データの収集は, 各大学のHPに掲載されている情報に限定している.

データ収集内容

(1) 基本情報

大学名, 学科・コース・専攻名, 設立年, 偏差

値、学生数、専任教員数、教員 1 人の学生数について収集した。なお、偏差値については、民間のサイトに掲載されているものを収集したため、あくまでも参考資料である。

(2) 3つのポリシー

アドミッションポリシー (AP)、カリキュラムポリシー (CP)、ディプロマポリシー (DP) の内容および文字数について収集した。

(3) 教育カリキュラム

必修科目数、必修科目単位数、必修科目の科目名、それ以外の科目数、それ以外の科目単位数、卒業要件単位数、卒業要件単位数 (専門科目) について収集した。

以上、大きく分けて 3 つの内容についてデータの収集を行ったが、本稿では、基本情報や教育カリキュラムの全体的なまとめと、3 つのポリシーについて報告する。

結果

(1) 各大学の基礎データ

各大学の基礎データ (学生数、AP、CP、DP の文字数、卒業要件単位数、必修科目数) について表 3.1, 3.2 に示す。なお、様々な理由により各大学の HP から抽出できなかった、もしくは判別が困難であった情報については空欄としている。また、学生 1 人当たりの学生数を算出するためには、当該学生数および当該専任教員数のデータが必要であるが、こちらは HP から抽出できない大学が多かったため、扱わないこととした。

まず、大学規模について見ていく。41 大学のうち、100 人以下の大学は 0 大学 (0%)、101~500 人の大学は 1 大学 (2%)、501~1,000 人の大学は 3 大学 (7%)、1,001~3,000 人の大学は 21 大学 (51%)、3,001~5,000 人の大学は 9 大学 (22%)、5,001 人~10,000 人の大学は 7 大学 (17%)、10,001 人以上の大学は 0 大学 (0%) であった。心理学を教えている女子大学は 1,001 人以上の規模の大学が 9 割を占めており、学生数の比較的少ない大学においては設置されていないようである。

次に AP、CP、DP の文字数について見ていく。それぞれに関して、最も文字数が少ないものは AP (142 文字)、CP (220 文字)、DP (126 文字) であり、最も文字数が多いものは AP (1,878 文字)、CP (2,606 文字)、DP (1,383 文字) であった。3 つのポリシーに関して、それぞれ相関係数を求めたところ、中程度の相関 ($r = .33 \sim .41$) であり、

必ずしもどれか一つのポリシーの文字数が多ければ他のポリシーの文字数が多くなるというわけではないと考えられる。文字数の最も多いものと少ないものを見ると、どれだけ詳細に大学の教育に関する考えを伝えているかどうかに違いが出ている。例えば、AP に関しては、求める人材像だけでなく、高校時代までの具体的な学習経験について AP の中に含めて記述をしている大学と、求める人材像をシンプルに記述している大学といった特徴の違いが見られる。

最後に、卒業要件単位数 (専門科目) と必修科目数 (専門科目) について見ていく。卒業単位数 (専門科目) の最も少なかった大学は、40 単位、最も多かった大学は、108 単位であった。卒業要件単位数自体はどの大学においても大きな差が見られない (124~132 単位) ことを考えると、専門科目のプログラムをしっかりと作りこむことに力を入れている大学と、教養と専門をバランス良く学ぶことに力を入れている大学という違いがあることが分かる。必修科目数 (専門科目) にも各大学の特徴が表れており、必修科目数 (専門科目) が一桁の大学がある一方で、20 科目近くを必修科目としている大学もあり、大学の教育方針が反映されているものと考えられる。なお、授業名を見てみると、例えば、「統計」の授業が必修科目に設定されていない大学、心理学分野の参照基準の「心理学の諸理論」「心理学的測定法と心理アセスメント、心理学実験」についてすべて網羅している大学など様々なパターンがあり、必修科目数に加えて、必修科目にどんなものを配置するのかによって大学の独自性を打ち出すことが可能だと考えられる。

表 3.1 各大学の基礎データ (学生数、AP、CP、DP の文字数、卒業要件単位数、必修科目数)

大学 No.	学生数 (人)	AP (文字数)	CP (文字数)	DP (文字数)	卒業要件単位数	卒業要件単位数 (専門科目)	必修科目数 (専門科目)
1	6,065	439	764	342	126	76	17
2	1,760	273	352	243	124	64	8
3	3,780	252	428	175	124	66	11
4	4,686	142	572	155	128	76	14
5	964	293	794	197	130	60	15
6	764	169	240	183	124	74	26
7_1	2,075	784	975	392	124	68	15
7_2	2,075	348	967	456	124	62	14
8	2,440	210	683	279	124	94	14
9_1	1,907	189	412	332	124	-	14
9_2	1,907	189	412	332	124	-	14
10	4,315	313	933	368	124	44	31
11	3,068	616	1,978	948	124	90	18
12	2,077	428	2,142	556	124	78	19
13	2,245	881	2,606	651	132	98	5
14	3,672	330	1,351	1,383	124	94	17
15	6,412	209	266	544	124	80	4
16	4,079	424	661	289	130	64	19
17	2,438	580	1,489	871	124	-	22
18	6,214	354	447	312	126	40	5
19	2,471	319	355	352	124	88	6
20	5,305	189	746	411	128	72	11

表3.2 各大学の基礎データ（学生数、AP、CP、DPの文字数、卒業要件単位数、必修科目数）

大学No	学生数 (人)	AP (文字数)	CP (文字数)	DP (文字数)	卒業要件単位数	卒業要件単位数 (専門科目)	必修科目数 (専門科目)
21	6,032	233	584	311	126	77	1
22	210	357	850	400	124	48	4
23	2,680	486	1,610	438	124	62	15
24	2,005	399	1,387	569	128	92	-
25	5,340	389	317	1,016	132	72	11
26_1	1,696	1,878	880	680	-	-	-
26_2	1,696	572	528	415	124	60	-
27	3,520	267	790	585	124	-	-
28	2,960	510	886	1,073	124	68	-
29	2,246	380	686	504	128	-	-
30	1,600	364	2,165	233	124	74	15
31	1,900	552	448	281	124	60	-
32	1,940	320	396	228	124	70	10
33	7,754	378	671	733	124	-	5
34	1,124	188	523	460	124	62	-
35	4,761	233	253	126	128	72	-
36	746	243	491	390	132	108	13
37	1,540	231	307	185	124	96	24
38	1,960	315	599	353	124	94	5
39	2,896	398	1,098	690	124	-	-
40	1,200	-	456	265	130	-	-
41	3,260	237	220	329	124	-	13

(2) 3つのポリシー（テキストマイニング）

ここでは、女子大学における心理学教育においてどのような言葉が3つのポリシーの中で使われているかについてテキストマイニングを用いて明らかにしていくこととする。具体的には、樋口の開発した計量テキスト分析ソフト「KH Coder」を用い、出現頻度の高かった語について検討する。

まずは、APについて見ていく。表4は、APの中で頻出する語を出現数順に150位まで並べたものである。「人」がもっとも多く、「心理」「社会」「人間」と続いた。動詞では「持つ」が最も多く、続いて「求める」「学ぶ」「考える」の出現数が多かった。心理学教育は、社会における人の心を扱う学問であるため、「人」「心理」「社会」「人間」という語の出現数が多いのは十分理解できる。また、大学は自ら主体的に学び考える場であるので、「学ぶ」「考える」という動詞が出てくることも想定できる。「持つ」「求める」に関しては、どういう人材を求めるのかというAPの特徴がそのまま出たものであろう。心理学分野の参照基準の中には、ジェネリックスキルとして問題発見・解決能力やコミュニケーション能力が記載されており、それに対応した形で、「解決」「コミュニケーション」という語も上位に挙げられている。

表4 AP 頻出語ランキング（150位まで）

順位	抽出語	出現数	順位	抽出語	出現数	順位	抽出語	出現数
1	人	173	51	課題	17	101	異なる	8
2	心理	115	52	期待	17	102	課外	8
3	社会	94	53	経験	17	103	学び	8
4	人間	79	54	実践	17	104	教科	8
5	持つ	74	55	深い	17	105	自己	8
6	知識	68	56	備える	17	106	主体	8
7	求める	59	57	試験	16	107	受け入れる	8
8	意欲	57	58	大学	16	108	精神	8
9	基礎	53	59	関わる	15	109	捉える	8
10	関心	52	60	関係	15	110	卒業	8
11	能力	51	61	数学	15	111	探求	8
12	学ぶ	48	62	目的	15	112	内容	8
13	教育	48	63	領域	15	113	日程	8
14	入学	48	64	強い	14	114	入試	8
15	理解	48	65	高校	14	115	文章	8
16	心	47	66	様々	14	116	履修	8
17	身	47	67	論理	14	117	カリキュラム	7
18	学生	43	68	ポリシー	13	118	意見	7
19	学科	37	69	科目	13	119	意志	7
20	自分	36	70	高等	13	120	課程	7
21	学習	35	71	人材	13	121	学問	7
22	考える	35	72	文化	13	122	客観	7
23	問題	35	73	方法	13	123	公民	7
24	技能	31	74	有す	13	124	自身	7
25	学力	30	75	広い	12	125	取得	7
26	活動	30	76	考え	12	126	深める	7
27	科学	29	77	主体性	12	127	成長	7
28	行動	29	78	発達	12	128	専攻	7
29	次	29	79	方針	12	129	総合	7
30	解決	27	80	意識	11	130	対人	7
31	専門	27	81	活躍	11	131	大切	7
32	必要	27	82	研究	11	132	読む	7
33	力	27	83	自ら	11	133	付ける	7
34	思考	26	84	将来	11	134	物事	7
35	他者	25	85	探究	11	135	分野	7
36	多様	23	86	豊か	11	136	面接	7
37	表現	23	87	基づく	10	137	養成	7
38	幅広い	23	88	教養	10	138	臨床	7
39	コミュニケーション	22	89	姿勢	10	139	ボランティア	6
40	興味	22	90	資格	10	140	皆さん	6
41	貢献	22	91	取り組む	10	141	外国	6
42	積極	22	92	育成	9	142	学修	6
43	国語	21	93	好き	9	143	活かす	6
44	現代	20	94	産業	9	144	活用	6
45	人々	20	95	支援	9	145	願う	6
46	英語	18	96	授業	9	146	共感	6
47	学校	18	97	伝える	9	147	協力	6
48	生活	18	98	分析	9	148	高い	6
49	態度	18	99	目指す	9	149	視点	6
50	判断	18	100	さまざま	8	150	事象	6

次に、CPについて見ていく。表5は、CPの中で頻出する語を出現数順に150位まで並べたものである。「科目」が最も多く、「心理」「教育」「専門」「基礎」「社会」と続いた。動詞では「学ぶ」が最も多く、続いて「行う」「養う」「深める」の出現数が多かった。CPは、教育課程編成・実施の方針について記述されるものであり、「教育」「専門」「基礎」という語の出現数が多いのは十分理解できる。また、「養う」「深める」という動詞についても教育方針の記述で出てくることも当然であろう。次に、「発達」「臨床」「統計」「実験」といった心理学の専門に関わる用語がいくつか見られており、どの語を用いているのかによって心理学の中で、どの領域に力を入れて教育しているのかを判断することができると考えられる。他にも「少人数」という教育形態に言及しているものや、「英語」「外国」などの語は、他との差別化を図りやすく、特色として打ち出す際に有用な記述ではないだろうか。

表5 CP 頻出語ランキング (150位まで)

順位	抽出語	出現数	順位	抽出語	出現数	順位	抽出語	出現数
1	科目	453	51	設置	38	101	行動	21
2	心理	351	52	総合	37	102	発展	21
3	教育	223	53	課題	36	103	目指す	21
4	専門	170	54	コース	35	104	高める	20
5	基礎	147	55	内容	35	105	思考	20
6	社会	142	56	英語	34	106	支援	20
7	知識	107	57	活用	34	107	生涯	20
8	学ぶ	105	58	講義	34	108	データ	19
9	学科	94	59	表現	34	109	学部	19
10	研究	90	60	視点	33	110	学問	19
11	人間	89	61	実験	32	111	取得	19
12	演習	88	62	実施	32	112	体験	19
13	身	86	63	習得	32	113	基盤	18
14	理解	84	64	体系	32	114	段階	18
15	方法	78	65	分析	32	115	展開	18
16	学修	75	66	方針	32	116	年間	18
17	卒業	75	67	問題	32	117	目的	18
18	年次	69	68	養う	32	118	目標	18
19	課程	67	69	理論	32	119	キリスト教	17
20	配置	66	70	コミュニケーション	31	120	ゼミ	17
21	履修	65	71	学び	31	121	プログラム	17
22	次	64	72	関連	31	122	指導	17
23	実践	63	73	幅広い	31	123	主体	17
24	分野	63	74	基本	30	124	少人数	17
25	カリキュラム	62	75	現代	30	125	全学	17
26	編成	62	76	設定	30	126	達成	17
27	能力	61	77	選択	30	127	置く	17
28	科学	58	78	福祉	30	128	関係	16
29	領域	58	79	修得	29	129	健康	16
30	専攻	57	80	必要	29	130	人	16
31	発達	56	81	資格	28	131	大学	16
32	力	55	82	解決	27	132	統計	16
33	学生	54	83	成果	27	133	子ども	15
34	文化	54	84	多様	27	134	自分	15
35	行う	52	85	調査	27	135	深い	15
36	必修	52	86	外国	26	136	中心	15
37	生活	51	87	深める	26	137	認定	15
38	技能	50	88	精神	25	138	論理	15
39	授業	50	89	養成	25	139	視野	14
40	臨床	50	90	概論	24	140	取り入れる	14
41	心	49	91	獲得	24	141	他者	14
42	共通	47	92	自己	24	142	本学	14
43	実習	46	93	キャリア	23	143	それぞれ	13
44	論文	45	94	応用	23	144	学年	13
45	学習	44	95	作成	22	145	基幹	13
46	教養	44	96	情報	22	146	技術	13
47	評価	42	97	単位	22	147	教員	13
48	育成	40	98	スキル	21	148	構成	13
49	基づく	40	99	関心	21	149	高度	13
50	自ら	38	100	考える	21	150	人々	13

表6 DP 頻出語ランキング (150位まで)

順位	抽出語	出現数	順位	抽出語	出現数	順位	抽出語	出現数
1	心理	153	51	領域	21	101	実証	11
2	社会	128	52	学ぶ	20	102	探求	11
3	身	112	53	自分	20	103	的確	11
4	能力	103	54	総合	20	104	認定	11
5	知識	102	55	現代	19	105	様々	11
6	人間	98	56	単位	19	106	さまざま	10
7	理解	95	57	判断	19	107	経験	10
8	教育	69	58	論理	19	108	志向	10
9	心	63	59	教養	18	109	取り組む	10
10	力	60	60	人材	18	110	収集	10
11	専門	56	61	発見	18	111	人々	10
12	解決	50	62	必要	18	112	成果	10
13	他者	48	63	幅広い	18	113	生きる	10
14	問題	48	64	学生	17	114	養成	10
15	技能	45	65	関心	17	115	臨床	10
16	課題	39	66	求める	17	116	課程	9
17	科学	38	67	次	17	117	概念	9
18	基づく	36	68	情報	17	118	環境	9
19	生活	36	69	適切	17	119	健康	9
20	行動	35	70	学習	16	120	姿勢	9
21	自ら	35	71	広い	16	121	習得	9
22	態度	34	72	所定	16	122	女性	9
23	思考	33	73	備える	16	123	職種	9
24	多様	33	74	獲得	15	124	専修	9
25	実践	32	75	主体	15	125	対人	9
26	人	32	76	精神	15	126	論文	9
27	学科	31	77	データ	14	127	カウンセリング	8
28	基礎	31	78	援助	14	128	科目	8
29	修得	31	79	深める	14	129	活躍	8
30	卒業	31	80	スキル	13	130	企業	8
31	方法	30	81	プログラム	13	131	基盤	8
32	コミュニケーション	29	82	意欲	13	132	技術	8
33	活用	29	83	関わる	13	133	現象	8
34	自己	29	84	生涯	13	134	上記	8
35	発達	29	85	福祉	13	135	専攻	8
36	文化	29	86	分野	13	136	捉える	8
37	学位	28	87	価値	12	137	対応	8
38	深い	28	88	学士	12	138	発信	8
39	分析	28	89	活かす	12	139	本学	8
40	授与	27	90	基本	12	140	目指す	8
41	貢献	26	91	客観	12	141	倫理	8
42	関係	25	92	考える	12	142	グローバル	7
43	視点	24	93	視野	12	143	意見	7
44	育成	23	94	実現	12	144	応用	7
45	研究	23	95	創造	12	145	技法	7
46	表現	22	96	働き	12	146	共感	7
47	豊か	22	97	行う	12	147	行う	7
48	目標	22	98	理論	12	148	實質	7
49	持つ	21	99	学修	11	149	時代	7
50	有す	21	100	支援	11	150	自身	7

最後に、DPについて見ていく。表6は、DPの中で頻出する語を出現数順に150位まで並べたものである。「心理」が最も多く、「社会」「能力」「知識」「人間」「理解」と続いた。動詞では「持つ」が最も多く、続いて「有す(る)」「学ぶ」「求める」「備える」の出現数が多かった。DPは、卒業認定・学位授与の方針について記述されるものであり、出口を意識した「社会」という語や「能力」「知識」「理解」という語の出現数が多いのは十分理解できる。また、「有す(る)」という動詞についても卒業時に身につけておく必要のあるものという視点でDPの記述に多く出てくるのであろう。「解決」「課題」「問題」「実践」「貢献」「活用」などの語が上位に挙がってくるのは、卒業後の社会生活において在学中に学んだ知識をもとに、社会で生じている問題を解決できる力を身につけて欲しいという大学の考えを読み取ることができる。一方、本研究では女子大学を対象に検討を行っているが、「女性」という語があまり出てきていないのは興味深い。性別にとらわれない普遍的な力を身につけることに重点が置かれているのかもしれないが、より詳細に見ていく必要があるだろう。

3. まとめと今後の課題

本研究では、日本における女子大学の心理学に関する教育カリキュラムの特徴をこれまでの研究で扱われてきたシラバスなどの観点とは異なる、3つのポリシーや授業名などから整理、体系化を試みた。3つのポリシーの公表義務化といった流れの中で、ポリシーなどをもとに様々な大学の特徴を見ていくアプローチは有益であったと考えられる。しかし、改善していく必要のある課題がいくつか残されている。第一に、本研究では、あくまでも大学のHPから抽出可能な情報のみをもとに分析を行ったため、HPには掲載されていない大学の特徴を明らかにすることはできていない。また、全ての大学で同じ情報がHPに掲載されているわけではないので、この点は結果の解釈に留意が必要となるであろう。第二に、女子大学のみを対象としたため、今回得られた結果が、女子大学特有の特徴であるのかについては、それ以外の大学における教育カリキュラムとの比較をしなければ判断できない。第三に、今回の分析では、基本情報をまとめるところまでにとどまってしまっているが、例えば、卒業要件単位数(専門科目)や必修科目数(専門科目)によって大学をいくつか分類

し、その分類に基づいて、3つのポリシーの特徴を見ていくことで、より各大学の心理学に関する教育カリキュラムの特徴を明らかにすることが可能となるかもしれない。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1]本田周二・八城薫・古田雅明・香月菜々子・堀洋元・井上修一・牧野智和 (2018) . 日本の大学における教育カリキュラムの体系化 - 心理学分野に着目して -, 大妻女子大学人間関係学研究, 査読無し, 19, 103-112.

次年度より、公認心理師資格取得のための教育カリキュラムが日本全国の大学において導入されることが予想され、これまでとは3つのポリシーや授業科目が大幅に変わる可能性が考えられる。この点を踏まえると、次年度以降の教育カリキュラムについても分析を行うことによって、日本における心理学に関する教育カリキュラムの変遷を整理することが今後の大きな課題であろう。